

新居大島プロジェクト

●新居大島プロジェクトのはじまり

はじめまして！『新居大島プロジェクト』は09年6月に新

居浜市まちづくり協働オフィスの登録団体として発足しました。「新居大島」というのは、全国に数十か所ある「大島」と名のつく地域を特定するための呼び方です。活動を始めるきっかけは、若者の視点でまちづくりにつながる新居浜の魅力を再発見し、市民に提案しようとして08年度に実施された「2008にいほま魅



力新発見プロジェクト」（新居浜市まちづくり協働オフィス主催）に参加し、市民無形民俗文化財である大島の「とうどおくり」について調査したことです。

ポートフォリオ大島とうど

「とうどおくり」は、ほぼ全島民が作業に携わって一年の無病息災を祈願する一番大きな年中行事です。島民の自然への畏敬の念や、伝統の継承に対する誇りを感じました。それと同時にこの調査を通して、高齢化により75歳が「若手」と呼ばれる現状に心配になりま

した。調査する中、この土地が持つ独特の懐かしい空気感やゆったり流れる時間に、同じ新居浜市内でありながら街中にはない癒しの魅力を発見しました。しかし、新居浜で生まれ育った人にとって「大島」は、昔の思い出はあるものの、今となってはとても縁遠い場所になりつつあるのを感じました。

●「大島で何かしたいんよ〜！」

大島は、市の北東約1.5kmの海上に浮かぶ、周囲約10kmの島です。市営の渡海船で大人、片道60円で15分間の船旅が楽しめる上、船を降りた途端、時間の流れがゆるやかに感じられる素敵な場所がこんな身近にあるのに、放っておくなんてもったいない…。

魅力新発見プロジェクト終了後、どうにかして大島の持つ魅力をたくさんの方



新居大島プロジェクト
代表
杉本 智子
(新居浜市)

に伝えていくことができないかと思うようになりまして。
仲間との飲み会の席で「大島で何かしたいんよ」と話してみたところ、地域でアマ落語家として活動している方が興味を示して下さり、一番最初にスケジュールが決まったのが「新居大島寄席」でした。とはいうものの、まずは自分たちの目で現地を見てみよう、と島の方に現地在案内していただきました。その時気になったのが、海岸に流れ着く大量のゴミ！かつては海水浴場としてにぎわったこの海岸の現状を知り、とても寂しくなりました。手始めに海岸清掃をやりたいと思った私たちは、さっそくミーティングで提案し、第1回目の活動として7月に「ビーチクリーン大作戦」を執行。大雨の中、予想以上に大量のゴミを回収で



きました。

また、第2回目となる「新居大島寄席」は11月に公民館でアマ落語家4人を招いて開催。当日は「プチ☆大島フェア」と称して、市内の高校生がプロデュースしたお菓子をはじめ、大島特産の「白イモ」を使用した地域ブランド商品の販売会も同時開催し、島内外から訪れた方々に好評だったようです。

● やりたいこと まだまだ いっぱい

海岸清掃や落語会の継続はもちろん、大きな目標として、自転車の貸出ステーションを設置したいです。島内での移動を考えると、自転車があればもっと気軽に島へ足を運ぶ人も増えるのでは？という思いから、現在賛同していただける団体との話合いの準備を進めています。大島の自然そのままの良さを、それぞれの感性で受け取ってほしい。それにはまず、自分たちがもつと大島のことを知る必要があります。また、滞在して楽しめるスポットが増えていってほしいです。その一つとして「大島カフェ」をオープ

ンして、みんなのくつろぎ空間創りをするのが夢です。

● 「面白そうだね」が原点

これらの目標は、私たちの力だけでは実現できません。現在5人程度しかメンバーがいませんが、基本的には活動ごとに、その趣旨にマッチした団体とコラボすることで、活動を実現させてきました。今後の活動展開においても多くの理解者、協力者が必要としています。また、私たちがやろうとしていることが、地域の抱える問題解決に直結しているとは思いませんが、「面白そうだね」「楽しいね」を原点として、楽しみながら活動が続けていく中で生まれる様々なつながりが、結果として地域の賑わいになっていけば嬉しいと思います。

私たちが活動を始めるよりもずっと以前から「大島をなんとかしたい」「大島で何かをしたい」と考えている方は、潜在的にたくさんいらっしゃるようで、そういう人たちとも点から線へつながることで、より大きなうねりが生みだせるはずだと期待しています。

将来的には、全国に56か所あるといわれている「大島」と名のつく島をつなぐ「全国大島サミット」みたいなイベントを開催してみたいです。